

議会活性化特別委員会 報告

1. 委員構成

委員長：上田 朋和

副委員長：南出 貞子

委員：上野 清隆、若林 高、荒谷 啓一、一色 眞一、東野 眞樹、中川 敬雄、山口 忠志

2. 調査目的

議会改革、広報・広聴に関する調査研究

3. 調査期間

令和5年10月30日～令和6年9月25日

4. 委員会等開催状況

	委員会	行政視察
令和5年	2回	1回
令和6年	7回	0回
合計	9回	1回

5. 協議事項件数

31件（令和5年：8件、令和6年：23件）

6. 行政視察

◆11月16日 埼玉県川越市議会

「川越市議会ハラスメント根絶条例及び川越市議会議員政治倫理条例について」

◆11月17日 早稲田大学マニフェスト研究所

「若者や女性、会社員などの多様な人材の市議会への参画について」

7. 主な取組事項

① 大聖寺実業高等学校との意見交換会

若者の市政及び議会への関心度を高める取組の一つとして、大聖寺実業高等学校との意見交換会を開催する予定であったが、インフルエンザのまん延による学級閉鎖のため、やむなく中止となった。

しかし、生徒からは「加賀市の活性化」、「加賀市の防災対策」、「加賀市の福祉政策」をテーマに、たくさんの意見、提案があったことから、3月定例会での質問として取り上げた。

② 議会報告会「議会おでかけトーク」の実施

今年度も昨年度に引き続き、実施要綱に基づき市内10会場（まちづくり単位）で開催した。当日は4つのテーマを説明した後、テーブルごとに一つテーマを選んでいただき、グループ

トーク方式による意見交換を行った。グループトークは、各グループの議員が進行役を努めた。

参加者へのアンケートの結果では、グループトーク方式に対し、「とても気軽に意見・考えを発言することができた」、「比較的気軽に意見・考えを発言することができた」と回答した方が8割を超えており、参加者からは活発なご意見・ご提案をいただくことができた。

今後は、アンケート結果などを参考にしながら、令和7年度に生かしていく必要があると思われる。

議会報告会当日の様子



③ 中学生議会の開催

加賀市の未来を担う中学生に、選挙権年齢の引き下げにより身近なものとなった議会や市政への理解と関心を高めてもらうとともに、市政に対する要望や質問を発表する機会を提供し、中学生の視点からの意見を今後の市政運営に反映させていくことを目的として、8月5日に中学生議会を開催した。

当日、中学生議長の進行により、10人の中学生議員が市政や学校生活などに対し、若い感性や視点から市当局に質問した。

中学生議員へのアンケートの結果では、「私自身が議員の一員となり、加賀市に対して質問させていただくことで加賀市への興味を以前よりも深めることができた」、「議会に参加するという普段は経験できない貴重な経験ができてよかった」などのご意見をいただいた。

中学生議会の様子



④ 議会改革度調査2023ランキング全国5位

早稲田大学マニフェスト研究所が、毎年、全国の県市区町村議会へ議会改革に関するアンケート「議会改革度調査」を実施しており、議会改革度調査2023において、加賀市議会が全国5位という評価をいただいた。

調査項目に対する回答については、委員会で回答案について協議し、ランキング向上に資するさらなる議会改革の取組が実施できるかどうかについて検討した上で回答した。

8. 調査の結果

本委員会では、この間、9回の会議を開き、議会活性化に向けた議論や調査を重ね、着実に実行してきた。

早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度調査において、2016年、2017年に過去最高の4位という評価をいただいて以来、年々順位が下降気味であったが、一昨年の2022年には過去最高と並ぶ4位、そして今回の2023年では5位という評価をいただくことができた。

これは、これまで議会活性化に取り組んできた積み重ねが全国的に評価されたものであり、引き続き、市民からも高い評価を得られるよう、議会活性化に向けた取り組みを続けていくことが重要であると考えます。

よって、次期委員会でも本委員会でもまとめた申し送り事項等を踏まえ、議会基本条例の趣旨に則り、加賀市議会の活性化に向けたより一層の取組を期待する。